

令和6年度 第1回静岡市食育推進会議

日時：令和6年7月31日（水）14時00分～15時30分

会場：静岡市役所 新館9階 特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 第3次静岡市食育推進計画 令和5年度事業評価について

(2) 第3次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票について

(3) 第4次静岡市食育推進計画 令和6年度事業計画について

(4) 第4次静岡市食育推進計画における重点事業実施計画個票の作成について

4 その他

5 閉 会

静岡市食育推進会議委員一覧

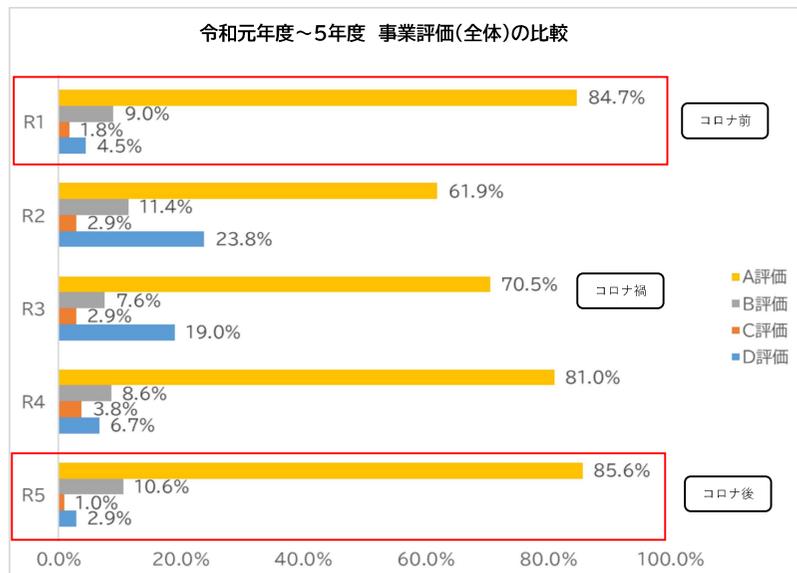
任期 R5. 6. 1～R7. 5. 31

R6. 6月現在

	所属・団体	役職	氏名
1	しずおか市消費者協会	理事	あおき よしこ 青木 良子
2	市民委員	—	うめき みきこ 梅木 幹子
3	静岡市校長会	賤機北小学校長	おだ やすこ 小田 泰子
4	関東農政局 消費・安全部	消費生活課長	かしわや ひろき 柏谷 広樹
5	一般社団法人 静岡市清水医師会	理事	かどた けいすけ 門田 景介
6	一般社団法人 静岡市静岡歯科医師会	副会長	きのした ひろお 木下 博雄
7	公益社団法人 静岡県栄養士会	副会長	くぼた みほこ 久保田 美保子
8	静岡県立大学 食品栄養科学部	教授	くの としこ 桑野 稔子
9	市民委員	—	しんや ことみ 新谷 琴美
10	市民委員	—	すぎうら もとあき 杉浦 元昭
11	静岡商工会議所	常務理事	まつうら たかゆき 松浦 高之
12	静岡市公立こども園園長会	中田こども園長	みずたに ともみ 水谷 智美
13	静岡市農業協同組合	代表理事組合長	みつやま きだむ 三津山 定
14	由比港漁業協同組合	代表理事組合長	みやはら じゅんいち 宮原 淳一
15	静岡市食生活改善推進協議会	会長	わたなべ りょうこ 渡邊 良子

(敬称略) 五十音順

基本理念		食を通じて未来を育み、しずおかの「わ」を広げよう ～健康長寿のまちづくりを食から～																	
基本方針		若い世代を中心とした食育の推進					健康長寿世界一につながる食育の推進					「わ」(和・輪・環)の食育の推進							
目標No.		目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	目標11	目標12	目標13	目標14	目標15	目標16	全体 (割合)	
目標 (評価指標)		食育に関心を持つ若い世代の割合の増加	朝食を欠食する若い世代の割合の低下	情報を得るために行動する若い世代の割合の増加	女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合の低下	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合の増加	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合の増加	生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合の増加	食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の増加	ゆっくり噛んで味わって食べる方に関心のある市民の割合の増加	定期的に歯科健診を受ける市民の割合の増加	毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をしている市民の割合の増加	食品ロス削減のために行動している市民の割合の増加	地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合の増加	農林漁業体験をしたことがある市民の割合の増加	地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合の増加	茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合の増加		
令和5年度対象事業数		7	2	12	2 (再掲2)	7 (再掲1)	4	10	10 (再掲1)	2 (再掲1)	9	3	2	10	12	8 (再掲1)	4	104 ※再掲込み	
1. 令和5年度事業評価	A評価	7	2	11	2	7	2	7	10	2	9	2	1	9	12	4	2	89	85.6%
	B評価	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	0	2	2	11	10.6%
	C評価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1.0%
	D評価	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2.9%
(参考) 令和4年度事業評価 (105事業)	A評価	6	3	11	2	5	4	7	8	2	9	2	2	6	9	6	3	85	81.0%
	B評価	1	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0	9	8.6%
	C評価	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	3.8%
	D評価	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	2	0	1	0	7	6.7%
2. 第4次食育計画への登載	継続	7	2	10	2	5	2	9	9	1	3	3	2	9	12	7	3	86	82.7%
	事業名・内容等変更	0	0	2	0	1	2	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	9	8.6%
	削除	0	0	0	0	1	0	1	0	0	5	0	0	0	0	1	1	9	8.7%



令和5年度対象事業は104事業(再掲含む)である。
事業評価は、「A評価」が89事業(85.6%)、「B評価」が11事業(10.6%)、「C評価」が1事業(1.0%)、「D評価」が3事業(2.9%)であった。

新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度から事業評価(全体)を比較してみると、令和5年度では「A評価」が85.6%と、令和元年度の「A評価」の84.7%を上回り、それぞれの事業がほぼ計画通りに実施できていることが分かる。

「事業評価」
当該年度実施計画を基準値として、A～Dの4段階で評価

- A評価：80%以上達成
- B評価：50%以上80%未満達成
- C評価：50%未満達成
- D評価：実施なし

令和5年度事業評価 B～D 評価の事業について

事業 No.	担当	事業名	評価	評価の理由と課題(抜粋)	第4次計画への記載
13	食品衛生課	食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」	B	メールマガジンは予定通り発行できた。ホームページのアクセス数は目標に届かなかったため、内容の充実を図ってアクセス数の増加に繋げたい。	継続
31	静岡市食生活改善推進協議会	食育教室(学校・幼稚園等)	B	依頼事業のため子どもが少ない地区では参加者が集まらず、実施ができなかった。実施ができなかった分は、他事業を開催するなどして対応した。	削除
37	児童生徒支援課	健康教室	B	教室開催は目標通り実施できた。生活習慣を見直し、実践の継続を支援できる手立てを検討していきたい。	削除
40	静岡県調理師協会	調理師資質向上対策事業	B	調理従事者に対し講習を通じて衛生管理の知識の向上を図ることができた。参加者を増やしていくことが課題である。	継続
61	葵・駿河・清水区健康支援課	おやこ食育教室	B	理解度、満足度は100%であった。会場により、応募者がなく中止となった回がある一方、定員を上回る回もあった。次年度は、多くの方が参加できるように開催会場を一部見直す。	継続
65	静岡市食生活改善推進協議会	スマートクッキング	B	料理教室を含む教室は3回実施で目標には届かなかったが、各事業の中で環境に配慮した食生活について講話を40回行った。	継続
68	清水漁業協同組合水産漁港課	用宗漁港まつり	B	天候不良により一日延期となってしまったが、生しらす、しらす加工品の販売、模擬せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができた。	継続
92	静岡県調理師協会	食文化・食育普及啓発	B	開発したレシピで料理教室を開催。さらに野菜摂取の大切さを伝える健康教育講習も同時に行い、参加者の好評を得ることができた。	継続
93	静岡市食生活改善推進協議会	子育てトーク・おやつ教室	B	依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施できなかったが、参加者には好評であった。	削除
95	農業政策課	お茶の美味しい入れ方教室	B	学校側のカリキュラムの都合や、5、6年生合同での隔年実施希望、類似の授業実施済みなど、全校実施には至らなかった。希望する学校に対しては全校実施した。今後は茶生産者など民間とも連携しながら、市内小学校での実施率を上げていく。	継続
96	静岡市食生活改善推進協議会	茶育・食茶の推進	B	茶育・食茶の教室としては募集をしておらず、依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施はできなかったが、食育の日などにチラシを配布するなどして周知をした。	削除

90	中山間地 振興課	都市山村交流 センターの活 用	C	評価指標の5割未満達成であったため、 評価はCとした。 コロナ後の行動変容により、講座の開催 数自体が減少していることから、目標値 の見直しが必要である。	継続
29	静岡市食 生活改善 推進協議 会	男性料理教室	D	男性料理教室はコロナ禍に一度開催を休 止。 依頼があれば対応をしてきたが、今後は 他の事業に含めていくこととする。	削除
38	静岡県給 食協会	しずおかアク ティ部	D	令和5年度は参加を見送った。 次年度については検討中。	継続
91	静岡県給 食協会	調理技術研修 会	D	令和5年度は実施をしなかった。 次年度については検討中。	継続

※詳細は「資料 2-2 第3次静岡市食育推進計画 令和5年度実績」をご覧ください。

第3次静岡市食育推進計画 各目標別掲載事業一覧

資料2-1

◎：目標数値を達成する上で最も影響のある事業

目標・目標数値・事業数	重点事業	No.	事業名	担当課・団体
目標1：食育に関心を持つ若い世代の割合 H28:78.7%⇒R5:85%以上 全7事業		1	0歳児の育児相談、6か月児育児相談における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		2	離乳食の作り方教室	葵・駿河・清水区健康支援課
		3	食育活動	子ども未来課
		4	あそび、子育ておしゃべりサロン	子ども未来課
	◎	5	公立こども園における食育推進事業	こども園課
		6	食育講習会	学校給食課
		7	しずまえ新聞の発行	水産漁港課
目標2：朝食を欠食する若い世代の割合 20歳代：H28:43.4%⇒R5:35%以下 30歳代：H28:29.7%⇒R5:25%以下 全2事業	◎	8	しずおかカラダにeat75	葵・駿河・清水区健康支援課
	◎	9	食に関する指導	学校給食課
目標3：情報を得るために行動する若い世代の割合 R5:80%以上 全12事業		10	静岡市版食事バランスガイド	健康づくり推進課
		11	食育の日、食育月間の普及啓発	健康づくり推進課
		12	食育ホームページ	健康づくり推進課
		13	食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」	食品衛生課
		14	保育フェアでの食育展示	こども園課
		15	農水産物の情報発信	農業政策課 水産漁港課
		16	啓発資料の作成	学校給食課
	◎	17	食に関する情報発信	学校給食課
		18	食の安全・食育に関する資料の展示	中央図書館
		19	食育の日、食育月間の普及啓発	静岡市食生活改善推進協議会
		20	健康まつり	静岡市食生活改善推進協議会
		21	第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組	関東農政局
目標4：女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合 H28:30.4%⇒R5:20%以下 全2事業	◎	(8)再掲	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
	◎	(9)再掲	食に関する指導	学校給食課
目標5：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合 H28:43.2%⇒R5:55%以上 全7事業		22	フレッシュマタニティ教室	葵・駿河・清水区健康支援課
		23	1歳6か月児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		24	3歳児健康診査における栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		(8)再掲	しずおかカラダにeat75	健康づくり推進課
		25	おやこの食育教室	静岡市食生活改善推進協議会
		26	給食参観	静岡市私立幼稚園連合会
	◎	27	栄養素について学ぶ	静岡市私立幼稚園連合会
目標6：主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 H28:57.7%⇒R5:70%以上 全4事業	◎	28	元気で長生き栄養講座	葵・駿河・清水区健康支援課
		29	男性料理教室	静岡市食生活改善推進協議会
		30	高齢者向け教室	静岡市食生活改善推進協議会
		31	食育教室(学校・幼稚園等)	静岡市食生活改善推進協議会

目標7:生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合 H28:60.6%⇒R5:65%以上 全10事業		32	健康まつりにおける栄養相談	葵・駿河・清水区健康支援課
		33	ヘルスアップ食事相談	葵・駿河・清水区健康支援課
	◎	34	食生活サポート講座	葵・駿河・清水区健康支援課
		35	健康相談(随時)	葵・駿河・清水区健康支援課
		36	栄養成分表示促進事業	食品衛生課
		37	健康教室	児童生徒支援課
		38	しずおかアクティ部	静岡県給食協会
		39	栄養士研修会	静岡県給食協会
		40	調理師資質向上対策事業	静岡県調理師会
	◎	41	生活習慣病予防教室	静岡市食生活改善推進協議会
目標8:食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合 H28:65.8%⇒R5:70%以上 全10事業	◎	42	食の安全教室	食品衛生課
		43	食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション	食品衛生課
		44	給食施設研修事業	食品衛生課
		(39)再掲	栄養士研修会	静岡県給食協会
		45	衛生講習会	静岡県給食協会
		46	見学研修会	静岡県給食協会
		47	グリーンコンシューマー講座 ⇒(仮)エシカル消費と家庭の食卓	しずおか市消費者協会
		48	「食品衛生月間」街頭広報活動	静岡市食品衛生協会
目標9:ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合 H28:38.6%⇒R5:45%以上 全2事業		51	歯つらつ健口講座	健康づくり推進課
	◎	(9)再掲	食に関する指導	学校給食課
	目標10:定期的に歯科健診を受診している市民の割合 H28:52.8%⇒R5:60%以上 全9事業		52	夏休み親子「歯」の教室～ミュータンス探検隊～
		53	歯みがき巡回指導	健康づくり推進課
		54	歯みがきスタート教室	健康づくり推進課
		55	1歳6か月・3歳児健康診査における歯科相談	健康づくり推進課
		56	乳幼児むし歯予防事業(委託)	健康づくり推進課
		57	フッ化物洗口法によるむし歯予防事業	健康づくり推進課
◎		58	歯周病検診	健康づくり推進課
目標11:毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合 H28:81.0%⇒R5:85%以上 全3事業		59	妊婦歯科健診	子ども家庭課
		60	歯と口の健康	静岡市食生活改善推進協議会
		61	おやこ食育教室	葵・駿河・清水区健康支援課
目標12:食品ロス削減のために行動している市民の割合 H28:50.3%⇒R5:55%以上 全2事業		62	サマーキャンプ	子ども会連合会
	◎	63	楽しく子育て応援教室	静岡市食生活改善推進協議会
	◎	64	食品ロス削減対策事業	ごみ減量推進課
		65	スマートクッキング	静岡市食生活改善推進協議会

<p>目標13: 地元(静岡市)で生産された物を日頃から購入するようにしている市民の割合</p> <p>H28:23.6%⇒R5:30%以上</p> <p>全10事業</p>		66	静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	静岡市認定農業者協会 農業政策課
		67	産業フェアしずおか	農業政策課 水産漁港課 中山間地振興課
		68	用宗漁港まつり	清水漁業協同組合 水産漁港課
	◎	69	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
		70	地産地消活動(商店街・店頭販売)	静岡市農業協同組合
		71	しずおか畜産まつり	静岡市農業協同組合
		72	地元の海産物	清水漁業協同組合
	◎	73	しらすを食べる会	清水漁業協同組合
	◎	74	地産地消活動(商店街・店頭販売)	清水農業協同組合
		75	アグリフェスタしみず	清水農業協同組合
<p>目標14: 農林漁業体験をしたことがある市民の割合</p> <p>H28:34.3%⇒R5:40%以上</p> <p>全12事業</p>		76	清水港マグロまつり	海洋文化都市政策課
		77	アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	農業政策課
		78	しずまえ漁業見学ツアー	水産漁港課
		79	親子しいたけ種駒打ち教室	中山間地振興課
		80	親子食農体験「ソレイユくらぶ」	静岡市農業協同組合
		81	出張加工品づくり教室	静岡市農業協同組合
		82	農業体験教育事業	静岡市農業協同組合
	◎	83	生消費言倶楽部	静岡市農業協同組合
		84	体験学習	私立幼稚園連合会
		85	タタミ干し作り体験と体験乗船	清水漁業協同組合
	86	出前講座	清水農業協同組合	
	87	農業体験教育事業	清水農業協同組合	
<p>目標15: 地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合</p> <p>H28:28.4%⇒R5:35%以上</p> <p>全8事業</p>		88	ライフステージに応じた各種食育推進講座	生涯学習推進課
	◎	89	食育応援団	健康づくり推進課
		90	都市山村交流センターの活用	中山間地振興課
	◎	(69)再掲	地場産物を取り入れた献立の提供	学校給食課
		91	調理技術研修会	静岡県給食協会
		92	食文化・食育普及啓発	静岡県調理師協会
	93	子育てトーク・おやつ教室	静岡市食生活改善推進協議会	
	94	じまんの「しよく」フェスタ	静岡市農業協同組合	
<p>目標16: 茶葉から入れた緑茶を飲む市民の割合</p> <p>H28:53.3%⇒R5:60%以上</p> <p>全4事業</p>	◎	95	お茶の美味しい入れ方教室	農業政策課
		96	茶育・食茶の推進	静岡市食生活改善推進協議会
		97	お茶育	静岡市農業協同組合
		98	緑茶を飲もう	静岡市私立幼稚園連合会

		目標1 食育に関心をもつ若い世代の割合を85%以上にする										全7事業																			
		A B		C										D		E		F		G		H I		J		L					
		事業の概要		対象者 (緑地に●、保護者も対象する場合は○)										現状・課題		第3次計画策定時の状況		令和5年度末目標値		実施計画(評価指標)		実績(成果)		評価		評価の理由と課題		第4次食育推進計画への位置			
姓名	計画の教団目標番号	事業	事業内容	015歳	611歳	1219歳	20129歳	30139歳	40149歳	50159歳	60169歳	70歳以上																			
英・他 健康文・福井水区	1 2	0歳児の育児見聞帳、6か月男児育児見聞帳における栄養相談	離乳食に関する個別栄養相談	○																											
英・他 健康文・福井水区	1 2	離乳食の作り方教室	講話、調理実習、実演、試飲、個別相談	○																											
子ども未来課	1 11 12 13 14	食育活動	市内の児童館等で栄養士や食生活改善推進協議会による食育講座や野菜の栽培・消費までの体験イベントなど食に触れる活動を行う。	●	●	●																									
子ども未来課	1 6	あそび・子育ておしゃべりサロン	公立こども園に栄養士を派遣し、菜園しと地産の未成熟豆とその保護者に講話・相談等を実施する。	●	○																										
こども園	1 3 11 14 16	【重点事業】公立こども園における食育推進事業	・体験を通じた適切な食習慣の体得(野菜、米等の栽培やフックアップ、地産や公共機関と連携した食育推進、旬の食材の活用) ・給食を通じた適切な食習慣の啓発(行事食、食料・給食、食育資料等の提示、食育たより・レシポの配布、保護者への試食会) ・歳別食育計画作成	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学校給食課	1	食育講習会	各小中学校での食育推進の支援のため、講話、栄養発表会等を実施																												
水産推進課	1 13	しずまえ新聞の発行	しずまえの漁業や水揚げされる水産物、しずまえの豆知識、料理のノウハウなどを掲載。公立小中学校の児童、生徒全員に配布(私立校は学校に配布)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

		目標2										期食を欠食する若い世代の割合を20歳代で35%以下、30歳代で25%以下にする		全2事業													
		A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録									
種名	計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 1 1 歳	1 2 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由						
																						令和5年度末目標値		実績(成果)		評価	
健康づくり推進課	1 2 3 4 5	【重点事業】 しずおかカラダeat75	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や食育イベントを企画して、まちぐるみで「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に懸念が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	充実	実践的に食習慣の改善に取り組んでもらうよう食育を展開し、各種媒体を活用した情報提供を図る。	・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューの取 ・食で始める健康貯金スタートブックの周知 ・スタートブックを活用した講座の開催 ・スパーとの連携による食と健康イベントの充実	民間事業者と連携した食育教室を2回開催 食育啓発用まんが「知って得する食事のアレコレ」を4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ一人暮らしのどうする?ごはんを約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水校が食育校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加で食べたい野菜レシピを検討し、調理・試食することで楽しく学ぶ機会となった。 食育啓発用まんが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。	継続							
	1 2 3 4 9	【重点事業】 食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や給食日よりによる情報提供	●	●	●	●	●	●	●	●	●	H29食育推進状況調査にて86%の学校が「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答した。	充実	・各学年1回以上実施する。 ・食育の成果が児童生徒に表れている」と回答する学校95%を目指す。	各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	各学年1回以上実施した学校89.6%	A	小中学校126校中112校で各学年1回以上の「食に関する指導」を実施できた。小学校92.7%、中学校93.6%の達成から中学校における実施率向上が顕著である。今後は、一人一台端末等も活用し100%を目指す。	継続							

		目標3										情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする		全12事業													
		A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録									
種名	計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 1 1 歳	1 2 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由						
																						令和5年度末目標値		実績(成果)		評価	
健康づくり推進課	10	静岡市版食事バランスガイド	静岡市版食事バランスガイドを使用し、栄養バランスのとれた食生活の普及啓発を行う	◎	◎	◎	●	●	●	●	●	●	各種教室、イベントの参加者へは周知出発しているが、特に若い世代に対してどのような手段で普及啓発をしていくか検討する必要がある。	継続	若い世代から栄養バランスのとれた食生活を送るよう、様々な機会において周知を図っていく。	市内9保健福祉センターに設置するほか、食育に関係する各種教室やイベントで配布し、また若い世代へ普及啓発を行う。	・食育月間等で静岡市版食事バランスガイドを配布 ・イベントや食育に関する各種教室でバランスガイドを配布	食育月間や健康増進月間にて食事バランスガイドを配布。 関係課での健康教育等で配布し、栄養バランスについて周知した。	A	食事バランスガイドは、教室や個別指導の際に栄養士等の協賛とともに配布する際は有効だが、配製等で手に取っていただく場合、内容への理解が難しいことも考えられる。 内容を検討し、新しい静岡版の食事バランスガイドを作成する。	継続						
	11	食育の日、食育月間の普及啓発	・市役所にポスター、ちらし等の展示、掲示 ・民間団体等と連携した食育活動	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	食育の日、食育月間、生活改善普及運動の各イベント、市民連携による食育推進活動を実施している。今後も食育を広く周知していく必要がある。	継続	食育を広く周知する手段として今後も継続していく。	・食育の日、食育月間、生活改善普及運動(5・9月)イベントの開催 ・市民連携による食育推進活動の実施	・食育の日、食育月間等イベントの開催 ・市民連携による食育推進活動の実施	食育月間では静岡・清水庁舎にて関東農政局と共催で食に関するパネル展示を行った。 香林寮のデジタルサイネージ放映で食育啓発用まんがの周知を行った。	A	食育の日で静岡伊勢丹ウェルネスパークで静岡市生活改善推進協議会の推進員と連携し、個別栄養指導を行った。 食育の日、食育月間については広く周知できるように引き続き、展示やSNS等を利用して発信していく。	継続						
健康づくり推進課	12	食育ホームページ	食に関する情報やイベント情報の提供、食育応援団の活動等を紹介	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●	食育事業や食育応援団に関する情報をホームページやフェイスブックにて配信している。情報の内容等を見直し、情報発信の強化を図る必要がある。	充実 見直し、改善	情報提供の内容を見直し、より効果的な情報発信を行う。	・食育事業の周知や実施状況の掲載 ・食育応援団事業の周知、実施状況の掲載 ・食育に関する情報の充実	・食育事業の周知や実施状況の掲載 ・食育応援団事業の周知、実施状況の掲載など	食育応援団の活動や当該事業(しずおかカラダeat75)等についてSNS等で発信した。	A	市のXで「しずおか食育通信」として食に関する情報を発信した。第4次食育推進計画がR6年度から開始するため、計画の内容の紹介についても今後発信をしていく予定。	継続						
	13	食の安全・安心ホームページ「たべしずねっと」	食育や食の安全に関する情報、レシピ情報、ニュース等掲載する専用サイト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	食の安全情報等、その時々合った話題を発信しており、今後も食の安全に関するポータルサイトを目標とする。コンテンツの充実やホームページ管理の知識・技術の向上が課題である。	継続	内容の更なる充実を検討する。	随時更新	アクセス数: 40000回 メールマガジン: 12回発行	アクセス数: 32855回 メールマガジン: 12回発行	B	メールマガジンは予定通り発行できた。ホームページのアクセス数は目標に届かなかったため、内容の充実を図ってアクセス数の増加に繋げたい。	継続						

		目標3		情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする																	
		A B		C							D E			F			G H I J			L	
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価			第4次食育推進計画への登録				
地区 の 種別	計画 の 種別 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 3 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
																					実施計画(評価指標)
14	子ども の 食生活	1 3 9 14 15	保育フェアでの 食育展示	●	●	●	●	●	●	●	●	食を通じた世代間交流や 生産者と消費者との交流 を行うことで、若手への普及 を促進することができ ている。	継続	継続して実施していく ことで、若手への普及 を促進を図る。	静岡市保育協会主催 年1回	実施未定	・保育フェアで給食や おやつの写真を表示。 また、食育クイズやエ プロンシアターを案 内。こども園の給食レ ジビを配布。	A	保育フェアで食育について のブースを設けて情報発信 ができた。	継続	
15	①2 農業 政策 推進 課	3 13 16	農水産物の情報 発信	●	●	●	●	●	●	●	●	年間104回(1週間に2 回)を目標に取材等を行 い情報発信を行っている。	充実	リンク先の農業者から の記事の投稿を可能に し段階的に増やしてい くことで、農業者が情 報発信できる環境をつ くる。	HP「ZRAITO!しずお か」を分売チラシと先 「農業者HP」へのア クセス数 5,400件 ①HP「ZRAITO!しずお か」へのアクセス数 71,000件 (RSよりアクセス数の カウント方法を変更)	①HP「ZRAITO!しずお か」へのアクセス数 71,000件 (令和5年度によりア クセス数のカウント方法 を変更する) ②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投 稿)	A	①63,600件(ZRAITO!し ずおか) ②静岡市SNSへの投稿 年52回(毎週水曜日投 稿) ③計画通り実施できた。	継続	①71,000件の目標に対し、実際は 63,600件に留まった。 昨年は記事の掲載が比較的少な かったためと考えられる。 ②計画通り実施できた。	
16	学校 給食 課	3	啓発資料の作成	●	◎	◎					H29食育推進状況調査より、 食育啓発資料が食育 推進のために役立ってい ると思う学校が50% であった。	継続	第2期静岡市教育委員 会食育推進計画に基づ き、啓発資料を作成 し、配付する。	食育推進状況調査にて 「食育啓発資料が食育 推進のために役立って いると思う」と回答す る学校80%以上を 目指す。	新1年生の保護者向け資料 を作成。	・新1年生の保護者向け 資料「学校給食が はじまります」を作成 し、各小学校に配付。 ・啓発資料のウェブ版を 作成し学校給食ウェブ サイトに掲載。	A	学校給食の仕組みやできる までを表現するため、文章表現を わかりやすくしたり、写真で 現場感を伝えたりした。今後は、 活用状況を踏まえ内容の修正や 通知方法等の見直しを図る。	継続		
17	学校 給食 課	3	【重点事業】 食に関する情報 発信	●	◎	◎					・H29保護者アンケート により、97%が献立表を 見ており、79%が市販 発行の家庭向けおたより をみていることが確認 された。 ・H29食育推進状況調査 より、食育推進のために 献立表やおたより、ホ ームページの情報発信が 役立っていると思う学 校は78%であった。	継続	献立表にて、ふるさと 給食や行事食、旬の野 菜、栄養バランス、食 事のマナーなどを紹介 する。	食育推進のために情報 発信が役立っている と思う学校80%以上 を目指す。	・学校給食ウェブサイ トで献立表、食育情 報、レシピ等を情報 発信。 (学校給食ウェブサイ トへのアクセス数(年 間約15万件))	A	・献立表に加え、学校給食に 関わる情報(歴史、学校給食 の様子、食育指導資料等)を 発信した。 ・地産地消の取組みを動画に した。 ・学校給食施設の様子や 献立の工夫とその特徴等 を、各施設の来客 士が定期的に情報発信 した。 ・食育に活用できるよ う新たなコンテンツ開 発を検討していく。	継続			
18	中央 図書館	1 3	食の安全・食育 に関する資料の 展示	●	●	●	●	●	●	●	普段手に取られない資料 を展示して出すこと で、手に取ってもらえ る。今後も継続してい く。	継続	引き続き全12館で展 示を実施していく。 ※大規模改修等で休 館する館を除く	市立図書館12館で展 示を実施 ※大規模改修等で休 館する館を除く	資料図書館を除いた11 館で関連資料(本・パン フレット)を展示する。	資料図書館を除いた11 館で関連資料の展示を 実施した。	A	計画どおり実施できた。食の 安全・食育の関連資料が、 閲覧や貸出をされること により、市民意識の 向上につながった。	継続		
19	静岡市 食生活 改善 推進 課	3	食育の日、食育 月間の普及啓発	●	●	●	●	●	●	●	市に協力、達成	継続	市に協力、街頭キャン ペーンの実施	静岡市に街頭キャン ペーンの実施協力達成	9回(各地区1回ずつ)	8回	A	会場の確保ができず開催 できなかった地区もあ ったが、原簿やス ーパー等と連携して 開催することができ た。	事業名変更	事業名を「食育の日 キャンペーン」に 変更	
20	静岡市 食生活 改善 推進 課	1 3	健康まつり	●	●	●	●	●	●	●	現状、概ね成果をあげ られている。	継続	各保健福祉センター で実施する食の啓発 事業に協力	各保健福祉センター で実施する食の啓発 事業に協力	2回(保健福祉セン ターからの依頼によ る)	2回	A	保健福祉センターから の依頼により開催し、 栄養バランス等につ いての周知する機会 となった。	事業名変更	事業名を「健康まつ りへの参加」に 変更	

目標3		情報を得るための行動をする若い世代の割合を80%以上にする																															
A		B		C							D			E			F			G			H			I			J			L	
事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は△)										第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価			第4次食育推進計画への影響															
計画の 取組 番号	事業	事業内容	015歳	12115歳	20129歳	30139歳	40149歳	50159歳	60169歳	70歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由														
																				第3次食育推進基本計画		令和5年度		第4次食育推進基本計画		令和5年度							
21	1-16	<p>第4次食育推進基本計画の重点課題の解決と目標達成のための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4次食育推進基本計画の推進に係る情報提供 ・食育月間の取組み(食育推進ポスター掲示、動画での告知及びセミナー開催) ・「関東食育推進ネットワーク」の活性化(関東農政局ホームページ「食育ひろば」にて情報発信、会員メールアドレス配信、食育活動の実施に関する交流会開催) 	●	●	●	●	●	●	●	●	<p>第4次食育推進基本計画に基づき、3つの重点課題の解決に向けて食育を推進</p> <p>(1) 生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進</p> <p>(2) 持続可能な食を支える食育の推進</p> <p>(3) 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進</p>	<p>第3次食育推進基本計画(平成29～令和2年度)の重点課題の解決と目標達成のための取組</p> <p>第4次食育推進基本計画(令和3年度～7年度)の重点課題の解決と目標達成のための取組</p>	<p>第4次食育推進基本計画において設定する目標の目標値</p>	<p>・食育推進協議会等で第4次食育推進基本計画及び目標に備え持続可能な生産～消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の周知・情報提供</p> <p>・6月の食育月間に関東農政局で作成の食育ポスターを合同庁舎2号館、ホテルプリンス武蔵野及び都県・政令指定都市、教育機関等に展示するとともに、新たに農業体験施設などに展示</p> <p>・関東農政局「消費者の部屋」6月特別展示にて食育に関する動画放映、さいたま新都心駅前大型モニターで食育月間及び食育啓発動画の放映により周知</p> <p>・6月の食育月間に令和5年6月オンライン及び現地にて食育セミナー開催</p> <p>・関東食育推進ネットワーク会員間の連携のプラットフォームとして、関東農政局のホームページ内「食育ひろば」やメールアドレスを有効活用</p> <p>・関東農政局ホームページ「食育ひろば」で随時、森林漁業体験情報、会員情報、イベント情報等の発信</p> <p>・関東食育推進ネットワーク会員に対しメールアドレスの配信(毎月19日)</p> <p>・食育活動の実践に関する交流会開催(令和6年2月)</p> <p>・管内都県・政令指定都市と連携した食育の推進</p>	<p>①食育推進協議会等で環境に備え持続可能な生産～消費を実現する「みどりの食料システム戦略」の情報提供</p> <p>②関東農政局「消費者の部屋」6月特別展示、関東農政局2号館パネル展、関東農政局作成ポスターを各県・政令指定都市などに配布</p> <p>③食育月間に関東農政局作成の食育ポスターを合同庁舎2号館、ホテルプリンス武蔵野に展示</p> <p>・関東農政局「消費者の部屋」6月特別展示にて食育に関する動画放映、さいたま新都心駅前大型モニターで食育月間及び食育啓発動画の放映により周知</p> <p>④関東食育推進ネットワーク会員間の連携のプラットフォームとして、関東農政局のホームページ内「食育ひろば」やメールアドレスを活用</p> <p>⑤関東食育推進ネットワーク会員に対しメールアドレスによる情報提供(毎月19日)</p> <p>⑥関東農政局ホームページ「食育ひろば」で食育に関するコンテンツを情報発信</p> <p>教育プログラムなどの森林漁業体験を動画で紹介する「関東食育DOGA」、15秒で食育を紹介する「食育15秒動画」を更新、森林漁業体験情報、会員情報、イベント等の情報提供SNS等を活用してスポーツ選手の食事の発信「食事の本報」</p> <p>⑦管内都県・政令指定都市の担当者会議開催</p> <p>⑧6月の食育月間、食育セミナー「スポーツの力と食育で地域を元気に!」を開催(令和5年6月10日(金)会場及びオンライン開催)</p> <p>⑨令和5年度食育月間セミナー「有機農産物について知ろう!」～消費者、生産者、小売業者、自治体が共に考えよう食育セミナー～を開催(令和5年2月18日(日曜日))</p> <p>「ヒエラスタジオ葛田(神奈川県横浜市)会場開催及びオンライン配信</p>	<p>②③食育推進ポスターの掲示 食育に関する情報発信</p> <p>④⑤関東食育推進ネットワーク会員に対して情報提供することで会員の食育意識促進に寄与</p> <p>⑥イベントや食・森林漁業体験等の情報、森林水産省や関係機関の食育に係る事業情報を発信することにより、食や森林水産業への関心を高めることに寄与</p> <p>教育機関や食育実践者から反響</p> <p>⑦若い世代への「家庭における食育の推進」</p> <p>⑧管内の都県・政令指定都市との情報共有などに寄与</p> <p>⑨食育月間セミナー及び食育活動の実践に関する交流会・学習会をオンラインで開催</p> <p>第4次食育推進計画の重点課題である「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進により様々な各目標の達成や施策の推進に効果を上げ</p>	継続	継続															

目標4		女性(20歳代)のやせ(低体重)の割合を20%以下にする										全2事業													
A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載									
種別	計画の 目標 番号	事業	事業内容	0 1 5歳	6 1 1 9歳	1 2 1 9歳	3 0 1 3 9歳	4 0 1 4 9歳	5 0 1 5 9歳	6 0 1 6 9歳	7 0 歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由					
(8)再掲	社団の 数 3 4 5	【重点事業】 しずおかカラダ(再掲)	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や教育イベントを通して、まごめが「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎	●	●	●	●	●	●	民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に関心が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	亦実	実践的に食習慣の改善に取り組んでもらうよう事業を開始し、各種媒体を活用した情報提供を図る。	・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューの確保 ・食で始める健康貯金スタンプブックの周知 ・スタートブックを活用した講座の開催 ・スーパーとの連携による食と健康イベントの充実	民間事業者と連携した食育教室を2回開催 食育啓発用まんが「知って得ずる食事のアレコレ」を4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ「一人暮らしのどうする?ごはん」を約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水桜が丘高校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加して食べたい野菜レシピを収録し、調理・試食することで楽しく学べた食となった。食育啓発用まんが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。	継続						
(9)再掲	学校の 数 1 2 4 9	【重点事業】 食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身に付くように、各小中学校で食に関する指導を実施 ・献立表や給食よりによる情報提供	●	●	●	●	●	●	●	H29食育推進状況調査にて86%の学校が「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答した。	亦実	・各学年1回以上実施した ・食育推進状況調査にて「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答する学校95%を目指す	各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	各学年1回以上実施した学校89.6%	A	小中学校12校中11校で各学年1回以上の「食に関する指導」を実施できた。小学校92.7%、中学校83.6%の授業に中学校における実施率向上が課題である。今後は、一人一台端末等も活用し100%を目指す。	継続							

目標5		主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合を55%以上にする										全7事業													
A		B		C						D		E		F		G		H		I		J		L	
事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)						第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載									
種別	計画の 目標 番号	事業	事業内容	0 1 5歳	6 1 1 9歳	1 2 1 9歳	3 0 1 3 9歳	4 0 1 4 9歳	5 0 1 5 9歳	6 0 1 6 9歳	7 0 歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由					
22	英・ 健康 支 援 課 2 3 水 区	フレッシュユマニティ教室	・講話(妊娠中の栄養・食生活、食の安全に関する内容) ・個別相談									妊婦期の食事に関する講義に調理実演・実習、試食を併せて行い、妊婦期の健康的な食生活について、理解を深め実践できるよう支援している。	継続	食事摂取基準や国民健康栄養調査の結果等、新しい情報を取り入れながら、妊婦期の食生活について、理解を深められるよう支援している。	教室アンケートより食事に悩む疑問が解消したと回答した割合90%以上	年10回実施 オンデマンド配信年3回 妊婦期の食生活について、妊婦の不安解消、軽減	A	計画通り実施し、満足度は100%であった。	事業名変更	事業名を「マタニティ教室における栄養士講話」に変更					
23	英・ 健康 支 援 課 1 2 5 1 水 区	1歳6か月児健康診察における栄養相談	健康診察時の個別栄養相談	◎								離乳食完了後の栄養バランスや調理方法等について、個別の対応が必要である。手づかみ食への重要性についても指導を行い、子供の食べる意欲につなげる。	継続	必要な栄養の大部分を食事からとることができ、幼児食へのステップアップできるように支援していく。	年間計画通りに実施。幼児期の食生活について、保護者の不安軽減。	年109回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及	A	計画通り実施した。	継続						
24	英・ 健康 支 援 課 1 2 5 1 水 区	3歳児健康診察における栄養相談	健康診察時の個別栄養相談	◎								備食や少食、食べむら等の悩みについて、個別の対応が必要である。食生活の基礎を培う大事な時期であることを保育者に理解してもらうよう指導を行う。	継続	生活習慣病予防や健康的な食生活の基礎となる指導、食に関する不安の解消を図るため、継続的な支援が必要である。	年間計画通りに実施。個々の対応を行い、幼児期の食生活について、保護者の不安軽減。	年112回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及	A	計画通り実施した。	継続						
(8)再掲	社団の 数 1 2 3 4 5	【重点事業】 しずおかカラダ(再掲)	民間企業・大学等と連携し、意見交換会や教育イベントを通して、まごめが「食」を通じた健康づくり事業を実施する	◎	◎	●	●	●	●	●	●	民間企業や大学等との連携を図り事業をスタートした。若い世代は朝食欠食や健康に関心が低いなどの課題が多く、実践面での行動変容に至っていない。	亦実	実践的に食習慣の改善に取り組んでもらうよう事業を開始し、各種媒体を活用した情報提供を図る。	・若い世代による食育ワークショップの開催 ・コンビニ、大学との連携によるメニューの確保 ・食で始める健康貯金スタンプブックの周知 ・スタートブックを活用した講座の開催 ・スーパーとの連携による食と健康イベントの充実	民間事業者と連携した食育教室を2回開催 食育啓発用まんが「知って得ずる食事のアレコレ」を4,000冊、「一人暮らしのどうする?ごはん」を12,000冊増刷し、高校2年生へ「一人暮らしのどうする?ごはん」を約7,000冊配布、その他、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館等にも配布した。	A	中北薬品(株)の栄養士を講師に招き、清水桜が丘高校生活研究部の生徒を対象に調理実習を含む食育教室を開催。「外食・ファストフード・市販の食材」についての講義を通して、さらに追加して食べたい野菜レシピを収録し、調理・試食することで楽しく学べた食となった。食育啓発用まんが「一人暮らしのどうする?ごはん」を高校2年生を中心に配布し、朝ごはんの重要性について周知した。	継続						
25	幼 童 中 心 5 8 1 1 水 区	おやこの食育教室	子どもの頃からよい食習慣を身につける親と手帳にできるおやつや食生活作り	●	●	●	●	●	●	●	現状達成	継続	ライフスタイルが変化するなか、家庭で家族が助け合い協力できる食育教室づくりを目指す。親子で季節の食材で一緒に楽しむおやつ作りや食生活作りができる環境を作ることが目標	2回	5回	A	子育て世代の食の悩みは多く、家庭でも実践しやすい食育(生活リズム、おやつ、ほみがき等)について講話や料理教室等を行った。	削除	「楽しく子育て応援教室」等の他事業に含む						

目標5		主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合を55%以上にする																										
A		B		C							D		E		F		G				H		I		J		L	
事業の概要		事業内容		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録													
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由									
26	熱海市私立幼稚園連合会 5 6 9 11	給食参観		◎							自分の子どもの食べる量、速さと他の子どもと比較ができた。給食の献立などを参観にご家庭の食事にも取り入れた保護者がいた。	継続	継続して子どもの食事の様子を保護者に伝えていく	各国で実施1回～3回	給食参観などで子どもの食べている様子を写真などで様子を発信する。	給食参観を実施することにより、食事の様子を保護者に伝えていくことができた	A	給食参観の実施や食育などにより、食事の様子を伝えることができ、親子の会話や家庭の食事の工夫につなげることができた	継続									
27	熱海市私立幼稚園連合会 1 6 13	【重点事業】栄養士について学ぶ		●							保護者自身が意識することであるという工夫として、子ども達に伝えようとするので、子どもも興味を示し理解しやすくなった	継続	継続して食育に興味をもてるような教材を使っていく	各国で実施	食育に関して興味ももてるような教材を利用し、栄養士など分かりやすく伝えていく。	3色の食品群の表を献立表に記したり掲示し、紙芝居やエプロンシアターなど、子どもなりに興味を持ち理解できるようにした	A	給食の献立の材料それぞれに役割があることを子供なりに理解できた。食育について日常の中で自然に理解できるようになった	継続									

目標6		主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合を70%以上にする										全4事業																
A		B		C							D		E		F		G				H		I		J		L	
事業の概要		事業内容		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録													
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由									
28	寒・結露・湧水 区 6	【重点事業】栄養士について学ぶ								65歳以上	食事バランスを見過すきっかけとなり、また参加者同士の交流の場ともなり、利用者の満足度が高い。会場により参加者にばらつきがあったり、リピーターが多く、新規参加者が少ない傾向にある。	継続	低栄養予防、食事バランスの重要性を知ってもらう。また、共食の良さを感じてもらおうことで食への興味を高める。新規参加者獲得のため、PR方法を工夫する。	・各種イベント等でチラシ配布などのPR ・交流館、交流センター等との連携	年15回実施 低栄養予防に関する知識の普及	年16回実施 延125人(参加者数) 低栄養予防に関する講義と体験活動	A	計画通り実施した。理解度は98%、満足度は99%であった。	継続									
29	改善推進協議会 5 6	男性料理教室			●	●	●	●	●	●	食材の栄養価や調理の基本を指導が目的だが、達成まではまだ不十分	継続	食材の栄養価や調理の基本を知ることはもちろんだが自分のための食事を作ることで出来る環境を提供する	2次計画では不十分だったので、今後の高齢化の時代を見据えた男性のための料理教室の展開	1回	0回	D	男性料理教室はコロナ禍で一度開催を休止。依頼があれば対応してきたが、今後は他の事業に含めていくこととする。	削除	「骨と体に良い料理教室」「生活習慣病料理教室」等の他事業に含む								
30	改善推進協議会 6	高齢者向け教室								●	●	達成	低栄養予防や認知症予防等高齢者向けの家族での実施に結びつく教室実施	今後、高齢化が進む中での低栄養予防や認知症予防を徹底での実践に向けて達成努力	10回	33回 (シニアカフェを含む)	A	コロナ禍で集団での教室開催が困難となった時から、高齢者を少人数で集めて講話等を実施するシニアカフェを継続している。	継続									
31	改善推進協議会 6 10 14	食育教室(学校・幼稚園等)	◎	◎							現状、根拠成果をあげられている。	継続	幼児から小学生まで食の大切さと感謝の心を育てていく啓発活動に取り組む。	幼児から小学生まで食の大切さの啓発活動100%の達成	10回	7回	B	依頼事業のため子どもが少ない地区では参加者が集まらず、実施ができなかった。実施できなかった分は他事業を開催するなどして対応した。	削除	「楽しく子育て応援教室」等の他事業に含む								

目標7		生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合を65%以上にする																		
A B		C										D E		F		G H I J		L		
事業の概要		対象者 (数値に●、保護者を指定する場合は○)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録				
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 3 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
40	調理師資質向上 対策事業	各種研修を実施(生活習慣病予防の調理法、健康増進法、食文化、食品衛生等)									・飲食店等で従事する調理師に対し、調理業務に関する資質向上を図る。	継続	調理師会を行った調理師等の資質向上を図る。	研修会20回(県全体)	募集方法を工夫し多くの調理師に参加していただくようにしていく。	県下5か所(うち静岡市2か所)にて衛生管理に関する講習会を開催した。	B	調理従事者に対し講習を通じて衛生管理の知識の向上を図ることが出来た。参加者を増やしていくことが課題となる。	継続	
41	【重点事業】 生活習慣病予防教室	減塩等生活習慣病予防のための料理教室			●	●	●	●	●	●	達成		減塩料理を通して生活習慣病予防の知識を身に付け、家庭で実践できる講話と料理実習をおこなう。	高齢化が進む中、今後重要な事業であり減塩生活習慣病のための家庭で簡単にできる料理の実践、	18回	28回	A	骨と体に良い料理教室、減塩料理教室、低栄養予防料理教室等を開催。依頼が多かったため、予定より多く開催することができた。	継続	骨と体に良い料理教室は、第4次計画では別の事業として評価していく。

目標8 食品の安全性について基礎的知識をもつ市民の割合を70%以上にする **全10事業**

A B		C										D E		F		G H I J		L		
事業の概要		対象者 (数値に●、保護者を指定する場合は○)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録				
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 0 3 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
42	【重点事業】 食の安全教室	小学校等での出前講座、食中毒、添加物などについての講話		●							毎年一定数の応募があり、おむね高い満足度を得ている。応募数によっては対応する課の負担になる点が課題であり、今後も調整を図る。	継続	授業内容の更なる充実を検討する。	30校	12回	12回	A	予定通りの実施数となった。応募数が増加した場合の受け入れ態勢の整備が課題である。	継続	
43	食の安全・安心に関するリスクコミュニケーション	食の安全・安心に関する講座やリスクコミュニケーションを開催		●	●	●	●	●	●	●	利用者の満足度はおむね高い。内容を充実させるため、その時々合った話題を取り入れていく。	継続	内容の更なる充実を検討する。	3回	出前講座は申し込みに応じて実施予定 マタニティ教室 10回	出前講座は4回 マタニティ教室 8回	A	概ね予定通りの実施数となった。マタニティ教室は、令和6年度から食品衛生課の時間を設けて行わないこととなったため、代替方法を検討中である。	継続	
44	給食施設研修事業	衛生講習会									【その他】 給食施設従事者	参加者は年々増えているが、当該講習会に不参加で講習会参加の機会がない施設もある。衛生知識を習得するための講習会等への参加を呼びかけていく必要がある。	継続	市内給食施設における食中毒の発生・食中毒予防、給食従事者の資質向上を図る。	年3回	年3回	A	計画通り実施できた。通信講座等を実施したことで、会場参加の他オンラインでの参加も多く、参加者の利便性向上を図ることができた。	継続	
(39)再掲	【再掲】 栄養士研修会	栄養アセスメントについての講習会、事例研究発表			●	●	●	●	●	●	毎年コンテストに事例を発表してくれている	継続	現状維持	現状維持	120名が参加	A	多くの参加者があり、計画通り実施することができた。	継続		
45	衛生講習会	衛生講習会(食中毒関連講演)			●	●	●	●	●	●	4回の実施日で、400名以上の参加がある	継続	現状維持	現状維持	198施設が参加した。	A	全施設参加となった。	継続		

目標8		食品の安全性について基礎的知識をもつ市民の割合を70%以上にする																			
A		B		C							D		E	F	G	H		I	J	L	
事業の概要		対象者 (該当に○、対象者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録					
採名	計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5 歳	6 1 1 9 歳	1 2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 4 9 歳	4 0 5 3 4 9 歳	5 0 5 6 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
46	8	見学研修会	見学研修会(食学・食研・調理器具の実演見学など)			●	●	●	●	●	●	20名程度の参加	継続	現状維持	現状維持	新型コロナウイルスに配慮し、希望によって開催を検討する	フードケータリングショー見学 10名が参加	A	計画通り実施することができた。	継続	
47	8	グリーンコンシューマー講座	「グリーンコンシューマー活動」について、専年度テーマを決定して関心ある消費者と家庭の食生活の関連について考える	◎	◎	●	●	●	●	●	●	生活改善、社会貢献につながるものを意識的に選択ができるようきっかけができた。独自の事業として開催する場合はクッキング教室と一緒に開催している	継続 充実	講座を6回にする	グリーンコンシューマーになるためパンフ作成配布する等	講座実施	講座実施	A	計画通り実施することができた。	事業名・事業内容変更	事業名を「エンカール消費推進のための講座・セミナーの開催」として新しく開始
48	3	「食品衛生月間」街頭広報活動(8月初め)	青葉緑地、静岡駅コンコース等の市内4箇所において、参加者120名によりチラシ、パンフレット、うちわ、ノベルティなどを配布し、食中毒予防を呼びかける	●	●	●	●	●	●	●	●	・食品衛生月間(8月)のウィークデーの初日に実施しているが、曜日、天候によって人通りの多少がある ・清水区で実施する場所に入道りが少ない	継続	家庭内での食中毒防止の推進	家庭内の食中毒の発生を抑える。	・静岡駅改札口での啓発活動 ・松坂屋への懸垂幕の掲出 ・保健所周辺へののぼり旗の掲出 ・保健所公用車に食中毒防止のマグネットを貼ってもらう	・JR静岡駅北口地下イベントスペースから静岡駅コンコースにおいて食中毒予防啓発品2000セットを配布した。(8月1日) ・松坂屋への懸垂幕の掲出実施。(8月中旬) ・保健所周辺へののぼり旗の掲出実施。(8月中旬) ・保健所公用車に食中毒防止のマグネット掲出実施。(8月中)	A	・令和元年に実施して以来の5年ぶりの街頭キャンペーンであったが、炎天下での活動をやめ、通勤ラッシュ時の配布としたため、短時間で効果的な活動が実現できた。 ・食中毒は家庭でも起こりうるという前提のもと様々な場面からの各家庭への啓発を実施できた。	継続	
49	3	「静岡食協ニュース」(年4回)	・年4回(タブロイド版4項)静岡市食品衛生協会雑誌として発行(500部) ・食関係の行政や日食協からの情報の伝達や提供									・掲載する行政や日食協からの情報は、会員にとって非常に重要であるので、情報提供のツールとして有益である。	継続	食の安全の確保に向けて、今後も行政情報等を提供し業界の食品衛生の向上を図る。	会員である食品取り扱い事業者が食協ニュースで得た情報をもとに衛生管理の徹底を図る。	・年4回(タブロイド版4項)静岡市食品衛生協会雑誌として発行(500部×4回)	・年4回(タブロイド版4項)静岡市食品衛生協会雑誌として発行(3510部×4回)	A	・令和3年6月に施行された改正食品衛生法により制度化されたHACCP制度や食品表示に関する最新情報などを会員に限りやすく提供できた。	継続	
50	8	地域のお祭り等への「バザー等開催」提出団体への消毒薬の提供	市民に調理や食品の提供に際して、手洗いがいかに重要であるかの認識を深めてもらう	●	●	●	●	●	●	●	●	町内会をはじめとして、バザー開催団体の担当者が翌年は変わってしまうことが多く、その場では手洗いの重要性を理解してくれるが、次年度への継続性がまだ感じられない。	継続	食品取り扱いの際には手洗いがいかに重要かを説明し、食の安全への意識の向上を図る。	・「バザー等開催」提出団体の皆さんは毎年定期的にやっている事業であり、食品の取扱に関して、手洗いの重要性への理解と普及を図り習慣化する。 ・バザーによる食品の取り扱いに際して、事故が起きないようにする。	提供消毒薬 500ml×200団体 手洗いのリーフレット	消毒薬・リーフレットの提供 165団体 (静岡56団体清水109団体)	A	・コロナ以前のバザー実施状況に比べて、食中毒に特化して共済保険等への加入促進にも繋げることができた。	継続	

		目標9		ゆつくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合を45%以上にする										全2事業						
		A B		C							D E F			G H I J				L		
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載		
課名	計画の 数値目標 課題番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 3 1 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由
51	健康づくり推進課	9 10	歯つらつ歯口講座									申し込みの地域に偏りがあるため、実施できていない地域への積極的な働きかけが必要である。	実施回数が少ない地域で講座が開催できるような、高齢者団体等への積極的な働きかけを行う。また、庁内関係団体との連携を強化し、これまで介入の無い会場での取組みを目指す。また、口腔機能向上体操(歯つらつマイル体操)の自主的な取組みを推進する。	令和5年度末目標値	年20回 参加者500名	20回実施 参加者564名	A	希望する全会場に口腔機能向上に関する知識を普及することができた。	事業名・事業内容の変更	事業名を「口腔機能向上事業」として新しく開始
		1 2 4 9	【重点事業】食に関する指導	・児童生徒に食に関する正しい知識と望ましい食習慣が身につくように、各小中学校で食に関する指導を実施。 ・献立表や給食日よりによる情報提供								H29食育推進状況調査にて86%の学校が「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答した。	・各学年1回以上実施する ・栄養教諭・栄養士によるT T授業の実施を図る。	食育推進状況調査にて「食育の成果が児童生徒に表れている」と回答する学校95%を目指す。	各学年1回以上の「食に関する指導」を実施。各学校の状況に合わせて柔軟に対応する。	各学年1回以上実施した学校89.6%	A	小中学校126校中112校で各学年1回以上の「食に関する指導」を実施できた。小学校92.7%、中学校83.6%の結果から中学校における実施率向上が課題である。今後は、一人一台端末等も活用し100%を目指す。	継続	

		目標10		定期的に歯科健診を受診している市民の割合を80%以上にする										全9事業							
		A B		C							D E F			G H I J				L			
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登載			
課名	計画の 数値目標 課題番号	事業	事業内容	0 5 歳	6 3 1 1 9 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
52	健康づくり推進課	9 10	夏休み親子「歯」の教室～ニュースタンス探検隊～									平成29年度より、「るくる」や「まある」など、対象年齢児とその保護者が多く集まる場所との連携により開催したことで、多くの児童への啓発を行うことができた。体験型の教室として実施していることで、より参加者が興味を抱く内容となっている。	対象年齢児(小学生)とその保護者が参加しやすい施設等で実施するとともに、体験型の教室実施により、参加者の意識と知識の向上を目指す。また、学校保健との連携により、更に効果的な内容等の検討・実施に繋げる。	令和5年度末目標値	年2回実施 参加者30名	「まある」にて年2回実施 1回目 参加者32人 2回目 参加者20人	A	歯科衛生士体験の講座を1回、歯科医師体験の講座を1回、合計2回実施した。	削除	事業名「学習期・思春期の歯科口腔保健支援事業」に移行	
		9 10	歯みがき巡回指導	希望する認定こども園、幼稚園、保育園に対し巡回指導を行う。また、フッ化物洗口の正しい知識を普及し、漱口実施を推進する。								9割以上の園において希望により実施できているが、園の都合等により実施希望がない施設がある。希望のなかった園に対するフッ化物洗口の推進方法について検討していく必要がある。	全施設(こども園・幼稚園・保育園)に対し希望調査を行い、希望のあった施設へは巡回による指導を行う。また、希望のなかった施設に対しては、文書等による情報提供により、歯科保健の正しい知識の普及に努め、フッ化物洗口拡大に向けた取り組みを行う。	令和5年度末目標値	希望園に対し、全園実施 実施率90%以上	希望園165園に対し、全園実施 181園中、希望園165園へ実施のため実施率91.1%	A	希望する園へは全て実施した。	削除	事業名「学習期・思春期の歯科口腔保健支援事業」に移行	
54	健康づくり推進課	9 10	歯みがきスタート教室									9か月児歯の教室の対象となる児(第一子)に対しては、教室の案内通知を発送し、8割以上の対象児の参加が得られている。むしろ歯予防だけでなく口腔機能への興味関心を高める保護者も増加傾向にある。	教室参加者アンケートや相談結果、幼児歯科健診のむし歯罹患状況等の結果を定期的に評価し、各年齢に応じた歯科保健指導及び情報の発信を行う。	令和5年度末目標値	9か月児歯の教室参加者9割以上(通知発送者)	令和5年7月から8か月～1歳2か月頃とその保護者を対象にした「歯みがきスタート教室」を開始 年43回実施	令和5年7月から「歯みがきスタート教室」を開始 年43回、参加者515人	A	「歯みがきスタート教室」は、計画どおり実施できた。認知度がまだ低いので、教室の周知啓発を行う必要がある。	事業名・事業内容の変更	事業名「1歳頃のむし歯予防事業」として新しく開始

目標10		定期的に歯科健診を受診している市民の割合を80%以上にする																			
A B		C										D E		F		G H I J		L			
事業の概要		対象者 (数値に●、保護者を指定する場合は○)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録					
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 1 5 歳	6 1 1 歳	1 2 1 1 歳	2 0 1 2 9 歳	3 0 1 3 9 歳	4 0 1 4 1 歳	5 0 1 5 8 歳	6 0 1 6 8 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
55	健康づくり推進課 9 10	1歳6か月・3歳児健康診査における歯科相談 健康診査時における個別歯科相談	●○									幼児期のむし歯は減少傾向にあるが、むし歯のない児とある児の格差の解消が課題となっている。むし歯リスクの高い児(ハイリスク児)に対し、歯科保健指導を実施し、必要のある児については健診後のフォローや他職種との連携により支援している。	多職種連携のもとむし歯リスクの高い児(ハイリスク児)に対する重点的な指導を行い、健康格差の解消を目指す。また、かかりつけ歯科医での定期歯科健診受診を勧奨していく。	・3歳児むし歯有病者率12%以下 ・ハイリスク児に対する指導及び個別フォローの徹底	必要ない児に対する指導(相談)の実施 1歳6か月児:相談者792人 3歳児:相談者366人 来所や電話による個別フォローの実施	A	必要ない児に対し、歯科保健指導の実施。来所や電話による個別フォローを行った。	削除	事業名「1歳頃のむし歯予防事業」へ移行		
56	健康づくり推進課 9 10	乳幼児むし歯予防事業(委託)	●○									2歳代から継続的に参加している児が多いが、自己参加のため、参加していない児も多い。かかりつけ歯科医での定期的な歯科健診受診を推進するために、さらに効果的な事業となるよう検討していく必要がある。	早期からのかかりつけ歯科医での定期的な歯科健診受診をするためのきっかけ作りの場として教室を継続実施するとともに、教室のあり方については、関係団体と協議のうえ効果的な事業実施を目指す。	・3歳児むし歯有病者率12%以下 ・5歳児むし歯有病者率30%以下	年52回開催 参加者数 1,760組	年52回開催 参加者数 1,047組	A	参加者数は想定を下回ったが、回数については当初の予定通り開催し、歯科健診と歯科保健指導を実施することができた。	削除	事業名「1歳頃のむし歯予防事業」へ移行	
57	健康づくり推進課 9 10	フッ化物洗口法によるむし歯予防事業 永久歯の歯科強化とむし歯の半減を目指す「歯の健康づくり」を推進するため、就学前の4・5歳児を対象としたフッ化物洗口法を実施	●○									対象となる施設(こども園・幼稚園・保育園)のうち、7割以上の施設で実施できている。私立幼稚園での実施率が低く、協力が得られていない。	歯みがき巡回指導等を通じ、各施設に対し「フッ化物洗口法」に関する正しい知識を普及し、実施拡大に向けた取り組みを行う。	・12歳児(中学1年生)の一人あたりむし歯本数0.3本以下 ・フッ化物洗口実施施設数8割以上 ・施設でのフッ化物洗口に関する事故ゼロ	希望園に対し、全国実施 未実施園に向けた推進 フッ化物洗口の正しい知識を普及	希望園に対し、全国実施した。 135園、5,234人が実施 未実施園に向けた推進 フッ化物洗口の正しい知識を普及	A	希望する園には全国実施した。実施を検討している園に対しては、職員向け説明会等を実施した。	削除	事業名「幼児期の歯科口腔保健支援事業」へ移行	
58	健康づくり推進課 10	【重点事業】 歯周病検査 勤務先などで検査を受ける機会がない40歳以上の方を対象に歯周病検査を実施						●	●	●		—	継続	40歳になる方を対象に、「無料の歯周病検査」を実施する。また、「成人健診するわがりガイド」の全戸配布や各種キャンペーン等を通じて検査制度を住民に周知する。	検査の実施	検査の委託実施 検査周知事業の実施 歯ビラ検査受診券やトリプル健診受診券の送付	検査の委託実施 検査周知事業の実施 歯ビラ検査受診券やトリプル健診受診券の送付	A	計画通り滞りなく検査委託、検査周知事業及び受診券送付ができています。	継続	
59	子ども家庭課 10	妊婦歯科健診 妊婦を対象とした歯科健康診査及び歯科保健指導の実施		●	●	●	●					受診率は経年で増加傾向にある。定期健診の重要性を周知し、より高い受診率を目指す。	継続	受診率47.7%	受診率52.6%	受診率50.6%	A	計画どおり事業実施が完了した。今後も継続して、母子健康手帳交付時に定期健診の重要性を周知していく。	継続		
60	特設食生活改善推進協議会 10	歯と口の健康 幼児から高齢者まで年齢に合わせた講話	●○	●○	●	●	●	●	●	●	●	現状ほぼ達成	継続	幼児期から高齢者まで、歯と口の大切さを伝えるための講話を実施していく。	今後今まで以上に力を入れ、全ての事業の中で歯と口の健康についての講話を入れていく事を目標	45回	57回	A	各事業の中で啓発活動を行った。8020推進員研修会を定期的に開催し、全推進員で市民に周知をしていくようにしていく。	継続	

		目標11		毎日1回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合を85%以上にする							全3事業									
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価					第4次食育推進計画への登載	
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	1 2 3 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
																				令和5年度事業実績と評価
61	英・ 韓国・ 韓国支 援課	1 5 11	おやこ食育教室	●◎	●	●	●	●	●	●	おやつを含めた幼児食の基礎、お手伝いのきつけづくり、子どもに食べるの興味をもってもらうなど、家庭で継続して食育ができるような教室づくりを行っている。新規参加者の確保、調理体験のみが目的の参加者への働きかけが課題。	継続	親子で食に関する知識と食を選択する力を習得する機会となる教室にする。併せて共食の推進に取り組む。	教室アンケートより朝食欠食率幼児期：然以下親世代：10%以下	年25回実施 幼児期の食生活についての不安軽減及び望ましい食生活についての知識普及	年21回実施(4回中止、66組 延132人(参加者数) 幼児食についての講義と体験活動の実施	B	理解度、満足度は100%であった。会場により、応募者が無く中止になった回がある一方、定員を上回る回もあった。次年度は、多くの方が参加できるよう開催会場を一部見直す。	継続	
62	静岡市子ども会連合会	11	サマーキャンプ	●◎	●	●	●	●	●	●	子ども達は班に分かれて炊飯活動をした中で同じ材料を使っても違うものができたりがみんなおもしろい出来上がった。	見直し・改善	年齢の違う子どもたちが教室では味わえない自然の中で強さとやさしさを身につける	自然の大切さ、他人への思いやり、命の大切さを身につける	サマーキャンプの開催	食材を使い切り味付けを工夫しながら食の大切さを知る事ができた。	A	献立、食材は同じでも味付けに依ってグループで味の違いが出て新しい発見が見えた	継続	
63	静岡市食生活改善推進協議会	9 10 11	【重点事業】 楽しく子育て 応援教室	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	子育てが楽しい環境の一つとして食事作りの楽しさを知ってもらうことが出来た。100%達成	継続	親子を対象に講話や料理体験を行い一緒に食卓を囲む機会を作る。	平成30～34年度全ての年度での100%達成が目標	14回 (地区によっては年1回開催予定の地区もあり)	13回	A	子どもが少ない地区では回数を減らして、高齢者を対象とした事業に代えて対応したため、目標には達しなかったが、概ね計画通りに実施ができた。	継続	

		目標12		食品ロス削減のために行動している市民の割合を55%以上にする							全2事業									
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価					第4次食育推進計画への登載	
計画の 数値目標 番号	事業	事業内容	0 5 歳	1 2 3 歳	2 0 5 2 9 歳	3 0 5 3 9 歳	4 0 5 4 9 歳	5 0 5 5 9 歳	6 0 5 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
																				令和5年度事業実績と評価
64	こみ減 推進課	12	【重点事業】 食品ロス削減 対策事業	◎	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	●◎	—	食品ロス削減対策について、幅広い対象へ周知を図るために、イベントなどの機会をとらえて啓発活動を実施し、市民へ意識の浸透を図っていく。	充実	・小学生へのごみ減量啓発講座での食品ロス啓発機会の確保 ・しずおか消費者協会など他団体との連携による幅広い啓発活動の実施	①フードドライブ啓発キャンペーンの実施(1回) ②食品ロス削減キャンペーンの実施(1回) ③出前授業の実施(清瀬工場見学時の講座も含める)(20回) ④しずおかたべきり協力店新規登録(35店舗)	①フードドライブ啓発キャンペーンの実施(市内事業者：10回、市内学校：7回) ②食品ロス削減キャンペーンの実施(1回) ③出前授業の実施(学校44回、沼上講座7回計120回) ④しずおかたべきり協力店新規登録(17店舗)	A	食品ロス削減に向けて、様々な事業者や市内学校関係者から協力を得ることができたため、当初目標を上回ることであった。当初目標については、新規登録や継続の意欲を向上させるため、インスタグラムを活用した情報発信を実施した。	継続	
65	改善課 静岡市 食生活 改善課	12	スマートクッキング	●	●	●	●	●	●	●	成果は、おおむね達成	継続	食材の使い切り、買い物のから片付け等、環境に配慮した調理実習を行う	食材の使い切り、買い物から片付けまで環境に配慮した調理実習の実施の100%達成をめざす	4回(調理実習)	3回	B	料理教室を含む教室は3回実施で目標には届かなかったが、各事業の中で環境に配慮した食生活について講話を40回行った。	継続	

目標13		地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする										全10事業														
A		B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は△)										第3次計画策定時の状況				令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録						
担名	事業	事業内容	0 1 5歳	1 2 3 1 9歳	2 0 3 2 9歳	3 0 3 3 9歳	4 0 3 4 9歳	5 0 3 5 9歳	6 0 3 6 9歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由							
66	静岡市認定農業者協会「春の市・秋の市・冬の市」	認定農業者による農産物の対面販売	●	●	●	●	●	●	●	●	生産者が直接対面販売することで消費者に対して地産地消をPRできている。積極的な広報活動により毎回来場者は増加傾向にある。	引き続き地産地消のPRの場として事業を継続していく。	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)の年3回開催。	ともびき市(年2回)・秋(11月)・冬(1月)・春(3月)年3回開催予定	秋(11月)・冬(1月)・春(3月)年3回開催	A	ともびき市は関係機関の都合により開催を遅滞したが、その他の事業は予定どおり開催できた。さらなる来場者増加のため、広報活動を強化する必要がある。	事業名変更	「静岡市認定農業者協会「秋・冬・春の市」」に変更							
67	産業フェアしずおか	地場産物や加工品の試食、販売、PR	●	●	●	●	●	●	●	●	2日間で87,000人の来場者により市内産水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることが出来た。加工品の試食、販売は充実しているが、体験コーナーを設け、「農水産業」への関心を更に深める必要がある。	地場産物や加工品の試食、販売、体験コーナーにより、市民に市内産水産物への理解と関心を深める。	2日間開催	2日間開催(11/25,26)	2日間開催(11/25,26)	A	①2日間で34,300人の来場者に市内産水産物について理解を深める機会を提供し、広くPRすることができた。 ②料理通し実施できた。 ③林業体験事業や市産木材の加工品の販売を通じて、来場者に林業への理解を深める機会を提供し、消費財を使用した加工品を広くPRすることができた。	継続								
68	用宗漁港まつり	・水産物、加工品の試食、販売(生しらす、番揚げしらす等) ・水産物を使った料理の販売(しらす丼) ・体験乗船 ・模擬せり など	●	●	●	●	●	●	●	●	生しらす、しらす加工品の販売、模擬せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができる。	引き続き、「しらすま」と「しらす」を広くPRすることにより、地産地消及び魚食の普及推進を図り、地域の活性化に繋げる。	来場者数50,000人	来場者数50,000人	来場者数30,000人	B	天候不良により一日延期となってしまったが、生しらす、しらす加工品の販売、模擬せりや体験乗船を通して、地域の漁業、水産物、魚の食べ方などへの関心や理解を深めることができた。	継続								
69	【重点事業】地場産物を取り入れた献立の提供	県内産食材や地域の食文化を生かした献立を実施	●	●	●	●	●	●	●	●	学校給食における地産地消率4.4・6%。6月・11月のふるさと給食週間に「地元産」食材を積極的に取り入れ、現在H29年度調査中。数値はH28年度のものを示す。	地場産物を活用した献立を提供し、献立表などでPRする。	学校給食における地産地消率の40%を維持する。	給食実施日には地場産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地場産物を使用した「ふるさと給食週間」を実施する。	地場産物を使用する「ふるさと給食の日」を毎月実施。6月と11月に連続6日間に地場産物や郷土料理を提供する「ふるさと給食週間」を実施。	A	毎月の「ふるさと給食の日」と年間2回の「ふるさと給食週間」に加え、年間を通して様々な地場産物の使用を意識した献立作成をした。	継続								
70	地産地消活動(商店街・店頭販売)	地場産物の販売	●	●	●	●	●	●	●	●	・毎月コンスタントに出店したいが、イベント開催がふりがちで、出れない場合もある。	・なるべくイベントを開催し、ほかのイベントにも積極的に出店する。	・年間30回以上イベントへ出店・また産直市では月に2度イベント開催及び、各支店にてJAまつりを年に1回開催	イベントを開催していく。またイベント出店等の取組があれば参加をする。JAまつりは開催予定であるが、支店(運営委員会)の判断により決定。	5店舗のじまん市でイベントを開催し、初の農産物の販売を行った。コロナも5類に分類され、JAまつりも開催した支店もあった。	A	コロナも少し納まりイベント等も限りつつあるものもびている。柑橘類、茶販売において規約を見直し、地区協定の制限等を解除し、全じまん市へ出店できるようにした。売り上げにもつながった。	継続								
71	しずおか産まつり	・畜産物の販売、食体験 ・加工品づくり体験	●	●	●	●	●	●	●	●	・産直市やJAまつりと合同で開催。	・するが年のPR活動の一環として継続	・継続開催(年回1回程度)	他のイベントと合同で開催。	南部じまん市(販売所)と合同で開催した。	A	直売所と合同で開催をしたため、多くの方にしらすをPRすることが出来た。イベントでは、牛乳の無料配布や堆肥の無料配布も行った。	継続								
72	地元の海産物(しらすをメイン)に食べてみよう(仮称)	・小学校での家庭科、課外学習及び学校給食への食材提供 ・地元の海産物・漁業・漁法の理解と「我がまち」の再認識や地元ブランド(しらす)の普及の目的も含む活動の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	人気のある講座で、受講者の満足度も高い。しかし市場でのシラス水揚げ量は、シラスの漁況によるので、水揚げが少ない時の受講者への対応に工夫が必要である。	—	—	静岡市長田生涯学習センター主催の為、協議しながら充実した講座にしていきたい。	年1回程度開催予定	長田生涯学習センター主催で8月10日に開催した。	A	計画通り実施できた。	継続							
73	【重点事業】しらすを食べる会(イベント協力)	地元ブランド(しらす)の普及	●	●	●	●	●	●	●	●	イベント開催時に、生シラスが確実に用意出来るかが課題です。(シラス漁況により好不漁がある為。)	—	—	未定 大漁になれば開催を検討する。	11月11日に開催した。(清水漁業協同組合ではしらすを提供)	A	計画通り実施できた。	継続								

目標13		地元(静岡市)で生産されたものを日頃から購入するようにしている市民の割合を30%以上にする																								
A		B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
計画の 数値目標 番号	事業 番号	事業の概要		対象者 (数値に①、保護者を指定する場合は②)							第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録											
		事業内容	事業内容	05歳	6511歳	205129歳	305139歳	405149歳	505159歳	605169歳	70歳以上	現状・課題	平成30~令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由						
74	13	【重点事業】 地産地消推進 (農産物)	地産地消の販売	●	●	●	●	●	●	●	●	各地域女性組織を中心に活動している。	継続	継続実施する。各地域女性組織を中心に活動する。	継続実施	13組織	管内13組織で農産物・加工品を中心に販売を行った。	A	直販を通し、地産地消の推進・生産者と消費者の交流(旬のものの紹介、食べ方の紹介)を行っている。定期開催により、旬の移り変わりや珍しい野菜を求めて来る消費者も多い。引き続き安全・安心な生産物の提供を行う。	継続						
75	13-14	アグリフェスタ しみず(旧清水農業まつり)	・農林水産物の紹介 ・農林水産物の展示販売 ・交流、体験	●	●	●	●	●	●	●	●	地産地消の推進や生産者と消費者との交流などを目的に毎年開催している。	継続	継続実施する。地産地消の推進や生産者と消費者との交流などを目的に毎年開催する。	継続実施	農協・関係団体が出店し、R5.11.19に開催した。	A	令和5年度も多くの方に来場いただいた。 ・地産地消の推進 ・地域、生産者と消費者との交流 ・清水の農産物紹介により、清水区で生産している農産物の認知ができた。午後になるとほとんど商品が無くなってしまいが、天候やその年の収穫状況に因るため、調整が難しい。	継続							

目標14		農林漁業体験をしたことがある市民の割合を40%以上にする										全12事業														
A		B		C							D		E		F		G		H		I		J		L	
計画の 数値目標 番号	事業 番号	事業の概要		対象者 (数値に①、保護者を指定する場合は②)							第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録											
		事業内容	事業内容	05歳	6511歳	205129歳	305139歳	405149歳	505159歳	70歳以上	現状・課題	平成30~令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由							
76	14	清水港マグロまつり	台風等による影響を最小にするため、年1回の開催を毎年開催とする。 【メイン開催】 ・自身マグロ解凍試食 ・マグロの解体ショー【サブ開催】 ・マグGolf ・中部自動車道沿線市町村へのPR ・ポータルサイト開設	●	●	●	●	●	●	●	●	さらなる認知度向上のために、シティーセールスとして市民連携による首脳間でのPR活動を実施していく。	継続	さらなる認知度向上のために、シティーセールスとして市民連携による首脳間でのPR活動を実施していく。	来場者60,000人(毎年実行委員会にて決定)	・清水港マグロまつりの開催 ・中部自動車道沿線市町村へのPR ・HPやSNSなどによるPR ・ポータルサイトの開設	・清水港マグロまつり2023「清水・マグロ博」の開催(55,000人来場) ・「清水は毎日マグロまつり」をキャッチフレーズとした周年事業の実施(34回) ・中部横断自動車道沿線市町村でのPRイベントの実施(上田市、佐久市、身延町、甲斐市)	A	メインイベントとなる「清水・マグロ博」にはコロナ禍以前と同規模の来場があり、大規模なPRを図ることができた。 また、周年事業や中部横断自動車道沿線市町村でのイベントPRも積極的に展開した。	継続						
77	14	アグリチャレンジパーク蒲原活用事業	・市民に対する農業啓発 ・市民対象の農業体験イベントの実施(野菜の苗植え、収穫等)	●	●	●	●	●	●	●	●	毎回多くの家族連れが参加し賑わっているが、作物の成長が天候に左右されるため、作物管理等に課題が残る。	継続	アグリチャレンジパーク蒲原の認知度向上や農業への理解を促進するため苗植え及び収穫の体験を実施する。	年間2回(苗植え・収穫)以上の体験イベントを実施。参加者300名以上。	年間2回(苗植え・収穫)以上の体験イベントを実施。参加者目標:300名/年	年間3回(ひまわりの苗植え、野菜の栽培、野菜の収穫)の体験イベントを実施。参加者人数:240名	A	イベント実施回数は目標を達成し、多くの市民に農業体験の場を提供することができた。 イベントを単なる体験で終わらせるのではなく、新規就農者の確保につなげていく必要がある。	継続						
78	14	しずまえ漁業見学ツアー	小中学生と親を対象に、市内で行われるしずまえ(桜えび漁、しらす漁、定置網漁など)や獲りの様子、水産加工工場の見学会を実施	●	●	●	●	●	●	●	●	しずまえで行われている漁業を実際に見学することで、水産業への興味・関心を得ることができている。	継続	引き続き、多くの市民の皆さんに、「しずまえ」の漁業を知ってもらうため、漁業見学ツアーを実施する。	参加者30人	参加者30人	参加者30人	A	しずまえで行われている漁業を実際に見学することで、水産業への興味・関心を得ることができた。	継続						

目標14		農林漁業体験をしたことがある市民の割合を40%以上にする																											
A		B		C										D		E		F		G		H		I		J		L	
事業の概要		対象者 (該当に0、保護者を定する場合は0)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録													
指名	事業	事業内容	0 1 5歳	6 1 1歳	1 2 1 9歳	2 0 1 2 9歳	3 0 1 3 9歳	4 0 1 4 9歳	5 0 1 5 9歳	6 0 1 6 9歳	7 0歳以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の方向性	削除の理由									
79	中山町地域実践課 13 14 14	親子しいたけ種 駒打ち教室		●	●	●						原木椎茸生産者の減少 後継者不足	継続 体験教室で、消費拡大・地産地消につながるPR的要素を盛り込む	年1回(3月) 20組(40人)程度募集	年1回(3月) 20組(40人)程度	年1回(3月) 10組(42人)参加	A	当初計画していた目標を超える参加者が集まり、駒打ち体験を通じて椎茸等特用林産物を広くPRすることができた。	継続										
80	静岡市農業協同組合 13 14 16	親子食農体験 「ソレイユくらぶ」 農業体験、調理実習、施設見学		●	●		◎	◎				・年々応募者が増え、今年も定員オーバーで開催。10年以上開催しており、全園のマンネリ化が否めない。	継続 充実 例年通り4回程度開催 見直し・改善	・継続開催(年回4回程度) 年間4回実施予定。	計画通り4回実施をした。 ①夏野菜を使った料理 ②新米を食べよう ③稲刈り体験 ④お餅つき	A	4回終了時、アンケートを実施したが、どの回も好評だった。もっと開催回数を増やして欲しいとの要望があるが、これ以上増やすことは難しい。企画もマンネリ化している。	継続											
81	静岡市農業協同組合 13 14 16	出張加工品づくり 教室	●	●	●	●	●	●	●	●		・小学校やこども園の依頼で開催。担当の先生により開催回数が変わる。	継続 ・学校やこども園の依頼があれば開催	・継続開催 大豆加工8回 米加工3回程度	小学校2校から(梅干しづくり、餅つき)の依頼有り。今後他に依頼があれば開催をする。	依頼があり、開催をした。	A	小学校から依頼があり、梅干しづくり、餅つきを実施した。対応する職員が減っている。	継続										
82	静岡市農業協同組合 14	農業体験教育事業	●	●	●	●	●	●	●	●		・人気の体験で、参加者は多いが、学校・こども園の依頼も多く、園場の確保が難しい。	継続 充実 例年通り開催予定	・体験農業の観光化のシステムの確立。	サツマイモ栽培、米作り、イチゴ栽培など依頼有り。実施作業10回以上。	依頼があり、開催をした。	A	サツマイモ栽培や米作り、イチゴ栽培など、実施作業10回以上行った。対応する職員が減っている。	継続										
83	静岡市農業協同組合 13 14 15	【重点事業】 生涯学習講座	●	●	●	●	●	●	●	●		・大豆やサツマイモのつるさしから収穫まで、一連の農作業を行う。収穫時には学習も兼ねる。人気もあるが、女性部の高齢化に伴いやり方を変える時期に来ている。	継続 見直し・改善 例年通り10回程度開催	・年間10回、参加人数300人を目指す。	年間7回計画。 参加人数200人を目指す。	年間7回開催。 参加人数203人。個別の圃場を設け、全体で作る大豆と個別で栽培する冬野菜に取り組んだ。収穫した大豆を利用したみそづくりや正月飾りづくりも開催した。	A	計画回数7回達成。参加人数達成。7月から12月の作業や加工品づくりを通して、生産者の思いを伝え、消費者の意見を聞くことができた。	継続										
84	静岡市私立幼稚園 11 14	体験学習	●									栽培への興味を高め、収穫時の喜びを感じることができた。収穫したことで嬉しいものも食べることができるようになった。食べ物を大切にすることができた。	継続 栽培、収穫は5件以上	通年を通して季節の野菜作りを子どもたちと一緒に考え、楽しむ。	1年を通して子どもたちと一緒に季節の野菜を栽培・収穫し、収穫した野菜を調理して味わった。	A	子どもたちが栽培・収穫にかかわることで、野菜に対して興味を持つことができた。また、食べ物に対して感謝の気持ちを育むことができた。	継続											
85	清水農業協同組合 14	タミヤン作り 体験と体験乗船	●	●	●	●	●	●	●	●		イベント開催時に、生シラスが確実に用意出来るかが課題です。(シラス漁況により好不利がある為。)	継続 —	関係団体と協議しながら、変更するPR活動をしていきたい。	11月頃に1回程度開催予定	11月27日に開催した。(清水農業協同組合ではしらすを提供)	A	計画通り実施できた。	継続										
86	清水農業協同組合 2 14 15	出前講座	●	●								事業により育成した食農インストラクターや各地域女性組織、JA職員が指導対応している。	継続 依頼により実施する。事業により育成した食農インストラクターや各地域女性組織、JA職員が指導対応する。	依頼により実施	依頼により実施	依頼のあった小中学校・改善施設、高校にて野菜栽培や収穫体験を実施。	A	・食農教育 ・農産物 ・世代間交流	継続										
87	清水農業協同組合 14	農業体験教育事業	●	●								各地域青年組織やJA職員が指導対応している。	継続 依頼により実施する。各地域青年組織やJA職員が指導対応している。	依頼により実施	依頼により実施	こども園、小学校にて野菜栽培や収穫体験、リース作り等を実施。	A	・食農教育 ・世代間交流	継続										

		目標15		地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合を35%以上にする										全8事業								
		A B		C										D E		F		G H I J		L		
		事業の概要		対象者 (該当に○、保護者を指定する場合は△)										第3次計画策定時の状況		令和5年度事業実績と評価		第4次食育推進計画への登録				
区分	計画の 実施 年度	事業	事業内容	0 5 歳	6 5 1 1 歳	1 2 1 1 3 歳	2 0 1 2 8 歳	3 0 1 3 9 歳	4 0 1 4 3 歳	5 0 1 5 8 歳	6 0 1 6 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
88	生涯学習推進課	1 6 15	ライフステージに応じた各種食育推進講座	●○	●○	●○	●	●	●	●	●	●	各生涯学習施設において、男性向け料理講座等、時代のニーズに応じた各種講座を実施している。指定管理制度を用いた多様な講座を実施しており食育講座を実施しない施設があるため目標値の見直しが必要。	継続	引き続き、様々な世代を対象に各生涯学習施設において事業を実施する。	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施	全37施設中32施設で、ライフステージに応じた各種食育推進講座を実施	A	計画の8割以上実施ができた。	継続		
89	健康づくり推進課	2 7 13 15	【重点事業】食育応援団	●	●	●	●	●	●	●	●	●	年々利用数が増え、利用者の満足度も高い。しかし、応援団登録者が少ないため応援団登録者に負担がかかっている。	充実 見直し・改善	応援団の登録数や利用数を増やすため、様々な機会において周知を図っていく。平成30年度は周知方法を見直し、重点的に登録数を増やすための呼びかけをする。	・応援団登録数35件以上 ・応援団利用数85件以上	・食育応援団パンフレット作成及び配布 ・応援団利用数50件	A	食育応援団依頼件数については目標には達しなかったが(90%達成)、参加者の満足度は高かった。食育応援団の講師は1個人増加したが、R5年度末で1団体が活動休止となり、支援内容の幅を広げていくためには、新しい講師の登録が必要である。	継続		
90	中山間地域振興課	13 14 15	郡市山村交流センターの活用	●	●	●	●	●	●	●	●	●	人気のある講座は毎回募集人数を上回る申込みがある。一方で募集人数を下回る講座がある。	継続	講座参加者に実施しているアンケートに「今後やってほしい講座」の項目を設ける等してニーズに合わせて講座を実施していく。	・各種作り手の講座実施回数50回以上 ・講座参加者数500人以上	・講座の開催：24件 ・講座の参加者：247名	C	評価指標の5割未満達成であったため、評価はBとした。コロナ後の行動変容により、講座の開催数自体が減少していることから、目標値の見直しが必要である。	継続		
(80)再掲	学校食育課	13 14	【重点事業】地産産物を取り入れた献立の提供	●	●	●	●	●	●	●	●	●	学校給食における地産地産率44・6% (6月・11月のふるさと給食週間に特設) ※専らR5年度実績。数値はR2年度のもの。	継続	地産産物を活用した献立を提供し、献立表などでPRする。	学校給食における地産地産率の40%を維持する。	給食実施日には地産産物を使用した「ふるさと給食」を実施。6月と11月には連続5日間地産産物を使用した「ふるさと給食週間」を実施する。	地産産物を使用する「ふるさと給食の日」を毎月実施。6月と11月には連続5日間地産産物や郷土料理を提供する「ふるさと給食週間」を実施。	A	毎月の「ふるさと給食の日」と年間2回の「ふるさと給食週間」に加え、年間を通して様々な地産産物の使用を意識した献立作成をした。	継続	
91	静岡県松食協会	15	調理技術研修会(和食、魚調理の研修など)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	毎回15～20名参加している	継続	現状維持	現状維持	新型コロナウイルスの状況を踏まえ開催する。	不実施	D	次年度については検討中	継続	
92	静岡県調理師協会	13 13 16	食文化・食育普及啓発	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・一般県民、市民及び調理従事者を対象に、食文化や食育の基本知識等の普及に努めた。 ・参加者に対し、実演や試食等をおこなうが教室を実施。健康寿命や食文化の重要性が叫ばれている現在において、知識や関心の普及啓発を図った。	継続	食文化と食育普及啓発の講習会開催 ふじのくに健康及び観光調理の開発と普及啓発(県全体)	専門調理師による講習会を県内2カ所で開催 食材・料理の研究、新調理開発、展示発表等の目的とする「健康料理教室」を県東・中・西部各地区で開催	健康料理レシポの開発 県下2カ所での料理の展示と料理教室の開催	地産産物を使用した健康料理の開発を10品行い、料理教室を開催した。	B	開発したレシポで料理教室を開催。さらに、野菜採取の大切さを伝える健康教育講習も同時に行い参加者の好評を得ることができた。	継続	
93	改善型子育て支援課	15	子育てトーク、おやつ教室等	●○	●○								ほぼ達成できている	継続	子育てに悩む保護者の子育ての話を聞きながらおやつ作りや行事食等楽しみながらの教室に心がける	5回	3回	B	依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施はできなかったが、参加者には好評であった。	削除	事業名「親子で楽しむ応援教室」等の他事業を含む	
94	静岡市産業振興課	13 16	じまんの「しょく」フェスタ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・地元産物を使い、消費者を募集してイベントを開催。衛生面を考慮されることから限られてきている。	継続 充実	・JAのPRもかねて毎年1度は開催予定	・年間1回開催	静岡産業フェアにて「じまんのスイーツフェスタ」を開催予定。昨年より出品数、参加加工所を増やす。	静岡産業フェアにて「スイーツフェスタ」を開催した。9つの朝市・加工グループが参加した。種類・出品数も昨年度より増やした(28種類・520箱)販売、各地の加工所のPRができた。	A	静岡産業フェアにて開催することによって、来場客が確保されている。各地から来場されるので、多くの方にPRができた。2年間スイーツフェスタとして開催したが、お弁当・総菜系に戻した方が良いか検討中。しかし、衛生面の関係から色々なことが難しくなっている。	継続	

		目標16		茶葉から淹れた緑茶を飲む市民の割合を80%以上にする										全4事業						
		A B		C							D E F			G H I J				L		
		事業の概要		対象者 (緑地に○、保護者を指定する場合は◎)							第3次計画策定時の状況			令和5年度事業実績と評価				第4次食育推進計画への登録		
課名	社団の 数値目 録番号	事業	事業内容	0 5 歳	1 2 3 歳	2 0 5 2 9 歳	4 0 5 3 9 歳	5 0 5 4 9 歳	6 0 5 5 9 歳	7 0 歳 以上	現状・課題	平成30～令和5(2023)年度の 取組の方向性	令和5年度末目標値	実施計画(評価指標)	実績(成果)	評価	評価の理由と課題	事業の 方向性	削除の理由	
																				令和5年度事業実績と評価
95	農政課	1 13 16	【重点事業】 お茶の美味しい入れ方教室		●	●					毎年多くの学校が実施し、興味・関心が高まった等の実施後の満足度が高い。しかし、カリキュラムの関係で未実施となる学校があるなど、実施率100%に至らない。	未実施校に対して、アンケート調査を行い未実施理由を調査することで実施につなげる。	静岡市内小学校 90校/90校	お茶の美味しい入れ方教室を希望するすべての市内小学校で実施	静岡市内小学校全87校へ希望調査を取り、希望校56校に実施。	B	学校側のカリキュラムの都合や、5、6年生合同での隔年実施希望、類似の授業実施済みなど、全校実施には至らなかった。希望する学校に対しては全校実施した。今後は茶生産者など民間とも連携しながら、市内小学校での実施率を上げていく。	継続		
96	静岡市食生活改善推進協議会	16	茶育・食茶の推進		●◎	●	●	●	●	●	今まで推進することが少なかったが、今後食育の中で努力したい	充実	全国一の茶どころである静岡なので飲むだけではなく茶育・食茶に取り組み	静岡県が全国一の茶どころであるために茶育・食茶に取り組み	2回	1回	B	茶育・食茶の教室としては募集をしておらず、依頼があれば対応をしたため、計画通りには実施できなかったが、食育の目などにチラシを配布するなどして周知した。	削除	単独事業として開催していないため削除
97	静岡市農業協同組合	14 16	お茶育		●	●	●				・各地区で小学校、中学校、こども園の依頼により開催する場合と独自イベントで体験する機会が半々ぐらい。茶摘みツアーが人気がある。	継続 充実	・学校の依頼があれば開催し、独自の開催も増やしていく。	・体験農業の観光化のシステムの確立。	茶摘み5回、工場見学1回、お茶の淹れ方2回、淹れ水講習1回(小学校または小中学校)	学校から依頼があり開催をした。	A	茶摘み、工場見学、お茶の淹れ方教室を実施した。対応する職員が減っている。	継続	
98	静岡市私立幼稚園連合会	1 16	緑茶を飲もう		●◎						来場者に緑茶を提供することで、地元の特産物に興味を持ち、再認識する良い機会になった。	継続	緑茶のおいしさを実感してもらおう	子育てフェア 1回	来場者に緑茶を提供し、地元の特産物に興味関心をもつ。	子育てフェア 1回	A	来場者に緑茶を提供することで、地元の特産物に興味関心を持ち、親しんでいただける良い機会に繋がった	継続	